

まちなかのイタリアン

(株)レストランチロルオーナー

渋谷 良次氏

山形市七日町の旧蜂屋ビル2階に「レストランチロル」を独立開業したのは昭和56年(1981)12月ですから、もう38年になります。当時とはずいぶん街の様子が変わりました。美しい街並みとなりましたが、かつての賑わいも知っておりますので、いささか寂しい思いもしております。

私は仙台市出身です。宮城県内の高校で食品製造・食品管理を学び、卒業後は地元の食品会社で製造に携わっておりました。その後、昭和42年11月にチロルフーズ(株)(本社・東京)へ入社し、宮城県内フランチャイズ5店舗の営業戦略や売上管理を任されておりました。

体調を崩し退職を申し出たところ、会社から「山形店の売上が芳しくない。店長として何とか立て直してほしい」と逆に説得されました。それまでに山形店には月に一度訪れ、店の状況を知っており、「改善すれば十分立て直すことができる。それでだめなら辞めて実家に戻ればいい」と引き受けました。

当時、山形市にはイタリアンレストランはありませんでした。なにしろピザが珍しかった時代ですから。「東京でも仙台でもチロルのピザ」がキャッチフレーズでしたが、パスタ、オムライス、グラタンといったよく知られているメニューを中心に提供しました。それと今も店の方針としている「当たり前のことを当たり前にする」を心掛けました。営業時間をきちんと守る。お客さまに不快感を与えない。料理ももちろんですが、お客様目線を大事にするというこ



とです。

若い頃、同僚と2人、ヨーロッパで1年2か月ほど料理の修業に行かせてもらいました。短期間でマスターできるはずありませんが、料理を楽しむ人たち、それを作り出す店の人たち。身をもって体験したことが役に立っていたのかもしれない。ホールを担当する妻(京子夫人)と調理・経営管理の私の二人三脚で取り組んだ結果、山形店の売上は年々上がり、昭和56年に暖簾分けのような形で独立開業することができたのです。

現在、店内は4人掛けのテーブル席を中心に90席用意しています。土日祝日は女性のペア、カップル、家族連れが多く、平日は近くのサラリーマンやOLの皆さんがランチに訪れます。以前から大学生が部活やサークルの打ち上げ、3、4月の歓送迎会に利用してくれています。「中学生のころ親に連れられて来たよ」と話しかけてくれる人もいます。独立して38年ですから、もう50歳近くになっているでしょう。私もいい歳になりました。それでも今年、冷蔵庫、食洗機、オーブンを新調しました。妻や手伝ってくれる学生さん、パートさんとともに、「無理をせず、当たり前のことを当たり前」をモットーに、「まちなかの、身近でちょっとおしゃれなレストラン」を続けていきたいと思っています。